

■自己点検・評価書

	頁	行	誤	正
1	前文 3	32	自己点検評価及び認証評価のための自己点検評価を	自己点検・評価及び認証評価のための自己点検・評価を
2	前文 4	2	自己点検評価	自己点検・評価
3	前文 4	4-5	自己点検評価	自己点検・評価
4	前文 4	6	自己点検評価	自己点検・評価
5	前文 4	9	自己点検評価	自己点検・評価
6	7	31	旧カリキュラムが薬剤師国家試験	旧カリキュラムは薬剤師国家試験
7	11	11	学習方法が用られている。	学習方法が用いられている。
8	16	5	「情報科学」と「薬学と社会」	「情報科学」と「薬学と社会」
9	26	17	「同英語ディスカッション B」	「英語ディスカッション B」
10	41	8	教養科目の「人と文化」	教養学科目の「人と文化」
11	41	32	などについて、	などにおいて、
12	47	5	非常勤講師とし（資料 44）、	非常勤講師とし、
13	47	7	えている。さらに、	えている（資料 44）。さらに、
14	47	18	他職種の医療スタッフ	多職種の医療スタッフ
15	54	29	90 分×127 コマ	90 分×132 コマ
16	59	20	能開発部門	能開発研究部門
17	62	25	疫学的検査	抗体価検査
18	62	27	検診	検査
19	72	21	OSCE 委員	OSCE 委員会
20	78	30-31	学生が先生方と	学生が教員と
21	87	26	告 2)、	2)、
22	91	7	データ化され（基 2)、	データ化され、
23	91	8	比較できるようにしている（基 7)。	比較できるようにしている（基 2)。
24	94	22	薬学教育研究センター・薬剤師教育研究部門	薬学教育研究センター薬剤師教育研究部門
25	98	10	判定をが行われている。	判定を行っている。
26	118	32	これらが中心	学生部及び学生部委員会が中心
27	127	13	サポートなどにあたっている。	サポートなどにあたらせている。
28	132	2	教員をを配置し、	教員を配置し、
29	135	9	規模と施設	規模と設備
30	135	24	規模と施設	規模と設備
31	140	23	実習受入委員会	実務実習委員会
32	146	34	自己・点検評価項目	自己点検・評価項目
33	147	13	自己点検評価	自己点検・評価
34	148	9	自己評価協議会	自己評価連絡協議会

「基礎資料」正誤表

大学名：星薬科大学

■基礎資料

	資料番号	行	箇所	誤	正
1	1-6	6	(扱) 薬学特別演習Ⅱ (25行9列目)	単位数 12	単位数 5
2	3-1	18-62	(基礎資料3-1) 改訂版 (平成28年9月5日提出)		赤字部分

(基礎資料3-1) 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目

- [注] 1 薬学教育モデル・コアカリキュラムのSBOsに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
2 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

※27年度から新カリキュラム開始につき1年に記載の科目名は26年度に実施したもの

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
(1) 生と死						
【生命の尊厳】						
1) 人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。(知識・態度)	生命と倫理			総合薬学演習 I		
2) 誕生に関わる倫理的問題(生殖技術、クローン技術、出生前診断など)の概略と問題点を説明できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
3) 医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
4) 死に関わる倫理的問題(安楽死、尊厳死、脳死など)の概略と問題点を説明できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
5) 自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。(態度)	生命と倫理			総合薬学演習 I		
【医療の目的】						
1) 予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
【先進医療と生命倫理】						
1) 医療の進歩(遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など)に伴う生命観の変遷を概説できる。	生命と倫理			総合薬学演習 I		
(2) 医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
1) 医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
2) 医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。(知識・態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
3) 医療の担い手にふさわしい態度を示す。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
【医療行為に関わるこころ構え】						
1) ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
2) 医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
3) インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
4) 患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
5) 医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
【研究活動に求められるこころ構え】						
1) 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	医療の担い手としての心構え、薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 研究者に求められる自立した態度を身につける。(態度)	医療の担い手としての心構え、薬学への招待			総合薬学演習 I		
3) 他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
1) 医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
2) 医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
【自己学習・生涯学習】						
1) 医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。(知識・技能・態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
2) 医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。(態度)	医療の担い手としての心構え			総合薬学演習 I		
(3) 信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
1) 言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) 意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
3) 相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
【相手の気持ちに配慮する】						
1) 対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) 相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。(知識・態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
3) 対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(技能)		信頼関係		総合薬学演習 I		
【患者の気持ちに配慮する】						
1) 病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) 患者の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
3) 患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。(知識・態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
4) 患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。(態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
5) 不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。(知識・態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
【チームワーク】						
1) チームワークの重要性を例示して説明できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。(態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
3) 自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。(態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
【地域社会の人々との信頼関係】						
1) 薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。		信頼関係		総合薬学演習 I		
2) 薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。(態度)		信頼関係		総合薬学演習 I		
B イントロダクション						
(1) 薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1) 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【薬剤師の活動分野】						
1) 薬剤師の活動分野 (医療機関、製薬企業、衛生行政など) について概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
3) 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		
4) 医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。			医薬品情報	医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		
5) 疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		
【薬について】						
1) 「薬とは何か」を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
3) 化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。	薬学への招待			医薬品開発と生産のながれ、治療、総合薬学演習 I		
4) 種々の剤形とその使い方について概説できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		
5) 一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	コミュニティーファーマシー、総合薬学演習 I		
【現代社会と薬学との接点】						
1) 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		
2) 麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
3) 薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
【日本薬局方】						
1) 日本薬局方の意義と内容について概説できる。	薬学への招待			総合薬学演習 I		
【総合演習】						
1) 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。(態度)	薬学への招待			総合薬学演習 I		
2) 身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。(技能)			医薬品情報	薬物治療演習、テーマード薬物治療、総合薬学演習 I		
(2) 早期体験学習						
1) 病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習					
2) 開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。(知識・態度)	早期体験学習					
3) 製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。(知識・態度)	早期体験学習					
4) 保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。(知識・態度)	早期体験学習					
C 薬学専門教育						
【物理系薬学を学ぶ】						
C1 物質の物理的性質						
(1) 物質の構造						
【化学結合】						
1) 化学結合の成り立ちについて説明できる。	化学物質の基本的性質	物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 軌道の混成について説明できる。	化学物質の基本的性質	物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 分子軌道の基本概念を説明できる。	化学物質の基本的性質	物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 共役や共鳴の概念を説明できる。	化学物質の基本的性質	物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子間相互作用】						
1) 静電相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 分散力について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 水素結合について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 電荷移動について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【原子・分子】						
1) 電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) スピンとその磁気共鳴について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。(知識・技能)			化学系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 偏光および旋光性について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 散乱および干渉について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 結晶構造と回折現象について説明できる。		物質の構造		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【放射線と放射能】						
1) 原子の構造と放射線変化について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 核反応および放射平衡について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 放射線の測定原理について説明できる。		物理系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 物質の状態 I						
【総論】						
1) ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【エネルギー】						
1) 系、外界、境界について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 状態関数の種類と特徴について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 仕事および熱の概念を説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 熱力学第一法則について式を用いて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な過程(変化)における熱と仕事を計算できる。(知識、技能)	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) エンタルピーについて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。(知識、技能)	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 標準生成エンタルピーについて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【自発的な変化】						
1) エントロピーについて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 熱力学第二法則について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。(知識、技能)	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 熱力学第三法則について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 自由エネルギーについて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。(知識、技能)	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 自由エネルギーと平衡定数の温度依存性 (van' t Hoffの式) について説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 共役反応について例を挙げて説明できる。	物質の状態 I			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 物質の状態 II						
【物理平衡】						
1) 相変化に伴う熱の移動 (Clausius-Clapeyronの式など) について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 相平衡と相律について説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な状態図 (一成成分系、二成分系、三成分系相図) について説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 物質の溶解平衡について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 溶液の束一的性質 (浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など) について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 界面における平衡について説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 吸着平衡について説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。(技能)		物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【溶液の化学】						
1) 化学ポテンシャルについて説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 活量と活量係数について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。	物質の状態 II	物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) イオンの輸率と移動度について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) イオン強度について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 電解質の活量係数の濃度依存性 (Debye-Hückel の式) について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【電気化学】						
1) 代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 標準電極電位について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) Nernstの式が誘導できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 濃淡電池について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 膜電位と能動輸送について説明できる。	物質の状態 II			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(4) 物質の変化						
【反応速度】						
1) 反応次数と速度定数について説明できる。		物質の変化、物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 微分型速度式を積分型速度式に変換できる。(知識・技能)		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。(技能)		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な複合反応(可逆反応、平行反応、連続反応など)の特徴について説明できる。		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 反応速度と温度との関係(Arrheniusの式)を説明できる。		物質の変化、物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 衝突理論について概説できる。		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 遷移状態理論について概説できる。		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 代表的な触媒反応(酸・塩基触媒反応など)について説明できる。		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。		物質の変化	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【物質の移動】						
1) 拡散および溶解速度について説明できる。		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 沈降現象について説明できる。		物質の変化		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 流動現象および粘度について説明できる。		物質の変化、物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
02 化学物質の分析						
(1) 化学平衡						
【酸と塩基】						
1) 酸・塩基平衡を説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 溶液の水素イオン濃度(pH)を測定できる。(技能)		物理系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 溶液のpHを計算できる。(知識・技能)		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【各種の化学平衡】						
1) 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 沈殿平衡(溶解度と溶解度積)について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 酸化還元電位について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 酸化還元平衡について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 分配平衡について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) イオン交換について説明できる。		化学平衡		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
1) 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【定量の基礎】						
1) 実験値を用いた計算および統計処理ができる。(技能)			物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 日本薬局方記載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 日本薬局方記載の容量分析法について列挙できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 日本薬局方記載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【容量分析】						
1) 中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量	物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 電気滴定(電位差滴定、電気伝導度滴定など)の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量	物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 日本薬局方記載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。(技能)			物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【金属元素の分析】						
1) 原子吸光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。		化学物質の検出と定量		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【クロマトグラフィー】						
1) クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。			生体分子を解析する手法、物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。			生体分子を解析する手法、物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。(知識・技能)		化学系実習 I	物理系実習 II	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
1) 代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。(技能)			物理系実習 II、物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。			物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分析技術】						
1) 臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 電気泳動法の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。			分析技術の臨床応用	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的なドラッグミストリーについて概説できる。			分析技術の臨床応用	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な画像診断技術 (X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など) について概説できる。			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 画像診断薬 (造影剤、放射性医薬品など) について概説できる。			分析技術の臨床応用、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
9) 薬学領域で緊用されるその他の分析技術 (バイオイメージング、マイクロチップなど) について概説できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬毒物の分析】						
1) 毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			分析技術の臨床応用	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な中毒原因物質 (乱用薬物を含む) のスクリーニング法を列挙し、説明できる。			分析技術の臨床応用	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な中毒原因物質を分析できる。(技能)			物理系実習Ⅱ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
(1) 生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1) 紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法、物理系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 電子スピン共鳴 (ESR) スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 旋光度測定法 (旋光分散)、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な生体分子 (核酸、タンパク質) の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。(知識・技能)			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【核磁気共鳴スペクトル】						
1) 核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【質量分析】						
1) 質量分析法の原理を説明できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【X線結晶解析】						
1) X線結晶解析の原理を概説できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			生体分子を解析する手法	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子 (タンパク質、核酸、脂質など) の立体構造を概説できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) タンパク質の立体構造を規定する因子 (疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など) について、具体例を用いて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 脂質の水中における分子集合構造 (膜、ミセル、膜タンパク質など) について説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。			生体分子の立体構造と相互作用	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	化学物質の基本的性質	官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 基本的な有機反応 (置換、付加、脱離、転位) の特徴を概説できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 炭素原子を含む反応中間体 (カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン) の構造と性質を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。	化学物質の基本的性質	官能基の性質と反応、化学系素習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【有機化合物の立体構造】						
1) 構造異性体と立体異性体について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) キラリティーと光学活性を概説できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ラセミ体とメソ化合物について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 絶対配置の表示法を説明できる。	化学物質の基本的性質、有機化合物の構造と反応			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) Fischer 投影式と Newman 投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【無機化合物】						
1) 代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な無機医薬品を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【錯体】						
1) 代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 配位結合を説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 錯体の安定度定数について説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 錯体の安定性に与える配位子の構造的要素 (キレート効果) について説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 錯体の反応性について説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1) 基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルカンの基本的な物性について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向 (アキシアル、エクアトリアル) を図示できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性 (アンチ付加) を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性 (Markovnikov 則) について説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 芳香族性 (Hückel 則) の概念を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。	有機化合物の構造と反応性	化学系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 複数の官能基を有する化合物をIUPACの規則に従って命名できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。				医薬品のコアとハー ツ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。(技能)		化学系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。(技能)		化学系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 求核置換反応 (S _N 1および S _N 2反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性 (Saytzeff則) を説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アルコール・フェノール・チオール】						
1) アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【エーテル】						
1) エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。	有機化合物の構造と反応性			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
1) アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) カルボン酸誘導体 (酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル) の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アミン】						
1) アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。		官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【官能基の酸性度・塩基性度】						
1) アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。	化学物質の基本的性質			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 含窒素化合物の塩基性度を説明できる。	化学物質の基本的性質	官能基の性質と反応		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 化学物質の構造決定						
【総論】						
1) 化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【¹H NMR】						
1) NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 有機化合物中の代表的水素原子について、おおよその化学シフト値を示すことができる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂(カップリング)する理由と、分裂様式を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) ¹ H NMRのスピンの結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
8) 代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。(技能)		化学系実習Ⅱ	化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【¹³C NMR】						
1) ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な構造中の炭素について、おおよその化学シフト値を示すことができる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【IRスペクトル】						
1) IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。(知識・技能)			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【マススペクトル】						
1) マススペクトルの概要と測定法を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)を説明ができる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 基本的な化合物のマススペクトルを解析できる。(技能)			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。(技能)			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。(技能)			化合物の構造決定	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。	有機化合物の構造と反応性	官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。		官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。		官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。	有機化合物の構造と反応性	官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。		官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) カルボン酸誘導体 (エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物) の代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換、化学系実習 I、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。		官能基の性質と反応、官能基の導入・変換、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		官能基の導入・変換		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。(技能)		化学系実習 I、化学系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
1) Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。	有機化合物の構造と反応性		複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。		官能基の性質と反応、化学系実習 II	複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な炭素-炭素結合生成反応 (アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など) について概説できる。		官能基の性質と反応、化学系実習 II	複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【位置および立体選択性】						
1) 代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【保護基】						
1) 官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【光学活性化合物】						
1) 光学活性化合物を得るための代表的な手法 (光学分割、不斉合成など) を説明できる。			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【総合演習】						
1) 課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。(知識・技能)			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 課題として与えられた医薬品を合成できる。(技能)			複雑な化合物の合成	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 反応廃液を適切に処理する。(技能・態度)		化学系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
(1) 生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
1) タンパク質の高次構造を規定する結合 (アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など) および相互作用について説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 糖類および多糖類の基本構造を概説できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
4) 核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生体内で機能する複素環】						
1) 生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ピリドキサル、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
1) 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【化学から観る生体ダイナミクス】						
1) 代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。			生体分子のコアとパーツ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
1) 代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【医薬品に含まれる複素環】						
1) 医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【医薬品と生体高分子】						
1) 生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 (知識・技能)				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生体分子を模倣した医薬品】						
1) カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【生体内分子と反応する医薬品】						
1) アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) インターカレーター的作用機序を図示し、説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。				医薬品のコアとパーツ、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
C7 自然が生み出す薬物						
(1) 薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
1) 代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生薬の歴史について概説できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 生薬の生産と流通について概説できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬用植物】						
1) 代表的な薬用植物の形態を観察する。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【植物以外の医薬資源】						
1) 動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生薬成分の構造と生合成】						
1) 代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げるができる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【農薬、化粧品としての利用】						
1) 天然物質の農薬、化粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生薬の同定と品質評価】						
1) 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な生薬の確認試験を実施できる。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な生薬の純度試験を実施できる。(技能)	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 生薬の同定と品質評価法について概説できる。	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
1) 医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。	薬になる天然資源Ⅰ		化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【天然物質の取扱い】						
1) 天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。(技能)			化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			化合物の構造決定、 化学系実習Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【微生物が生み出す医薬品】						
1) 抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。				病原微生物・悪性新生物、 総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【発酵による医薬品の生産】						
1) 微生物による抗生物質(ペニシリン、ストレプトマイシンなど)生産の過程を概説できる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【発酵による有用物質の生産】						
1) 微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			薬になる天然資源Ⅲ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
1) 漢方医学の特徴について概説できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 漢方処方と「証」との関係について概説できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【漢方処方の応用】						
1) 代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。		薬になる天然資源Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生物系薬学を学ぶ】						
C8 生命体の成り立ち						
(1) ヒトの成り立ち						
【概論】						
1) ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	人体の基本構造	生物系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。	人体の基本構造	生物系実習Ⅱ		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【神経系】						
1) 中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	人体の基本構造	薬の効き方ⅠA		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【骨格系・筋肉系】						
1) 主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【皮膚】						
1) 皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【循環器系】						
1) 心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節、生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節、生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【呼吸器系】						
1) 肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【消化器系】						
1) 胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の基本構造	生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【泌尿器系】						
1) 腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【生殖系】						
1) 精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【内分泌系】						
1) 脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【感覚器系】						
1) 眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【血液・造血管系】						
1) 骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血管系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。		生体の機能調節、生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1) 細胞集合による組織構築について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態および機能的特徴を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。(技能)		生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細胞膜】						
1) 細胞膜の構造と性質について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 細胞膜を介した物質移動について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細胞内小器官】						
1) 細胞内小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)の構造と機能を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細胞の分裂と死】						
1) 体細胞分裂の機構について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 生殖細胞の分裂機構について説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細胞間コミュニケーション】						
1) 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。	細胞の構造と機能			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1) 神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	人体の基本構造	薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) シナプス伝達の調節機構を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 筋収縮の調節機構を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ホルモンによる調節機構】						
1) 主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 血糖の調節機構を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【循環・呼吸系の調節機構】						
1) 血圧の調節機構を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 肺および組織におけるガス交換を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 血液凝固・線溶系の機構を説明できる。		生体の機能調節、生物系実習 II		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【体液の調節機構】						
1) 体液の調節機構を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。		生体の機能調節		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【消化・吸収の調節機構】						
1) 消化、吸収における神経の役割について説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【体温の調節機構】						
1) 体温の調節機構を説明できる。	人体の基本構造			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 小さな生き物たち						
【総論】						
1) 生態系の中での微生物の役割について説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 原核生物と真核生物の違いを説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【細菌】						
1) 細菌の構造と増殖機構を説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 腸内細菌の役割について説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 細菌の遺伝子伝達 (接合、形質導入、形質転換) について説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細菌毒素】						
1) 代表的な細菌毒素の作用を説明できる。		ミクロの生物		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ウイルス】						
1) 代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。		ミクロの生物	感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) ウイルスの分類法について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1) 主な真菌の性状について説明できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【消毒と滅菌】						
1) 滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な消毒薬を適切に使用する。(技能・態度) (OSCEの対象)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 主な滅菌法を実施できる。(技能) (OSCEの対象)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【検出方法】						
1) グラム染色を実施できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 無菌操作を実施できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 細菌の同定に用いる代表的な試験法 (生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験) について説明できる。		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な細菌を同定できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C9 生命をミクロに理解する						
(1) 細胞を構成する分子						
【脂質】						
1) 脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 脂肪酸の種類と役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 脂肪酸の生合成経路を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。	生体分子		物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【糖質】						
1) グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な多糖の構造と役割を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 糖質の定性および定量試験法を実施できる。(技能)		生物系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【アミノ酸】						
1) アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。(技能)			生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ビタミン】						
1) 水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。	生体分子			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生命情報を担う遺伝子						
【ヌクレオチドと核酸】						
1) 核酸塩基の代謝(合成と分解)を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) DNAの構造について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) RNAの構造について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【遺伝情報を担う分子】						
1) 遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 染色体の構造を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 遺伝子の構造に関する基本的用語(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) RNAの種類と働きについて説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【転写と翻訳のメカニズム】						
1) DNAからRNAへの転写について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 転写の調節について、例を挙げて説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) RNAのプロセッシングについて説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) リボソームの構造と機能について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【遺伝子の複製・変異・修復】						
1) DNAの複製の過程について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 遺伝子の変異(突然変異)について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) DNAの修復の過程について説明できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【遺伝子多型】						
1) 一塩基変異 (SNPs) が機能におよぼす影響について概説できる。	遺伝情報			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
1) タンパク質の主要な機能を列挙できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【酵素】						
1) 酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 酵素反応速度論について説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な酵素の活性を測定できる。(技能)		生物系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【酵素以外の機能タンパク質】						
1) 細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質 (受容体、チャネルなど) の構造と機能を概説できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 血漿リポタンパク質の種類と機能を概説できる。	タンパク質と酵素	生物系実習 I	物理系実習 III	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【タンパク質の取扱い】						
1) タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。(技能)		生物系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。(知識・技能)	タンパク質と酵素	生物系実習 I		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。	タンパク質と酵素			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
1) 食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ATPの産生】						
1) ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 解糖系について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) クエン酸回路について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 電子伝達系 (酸化リン酸化) について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【飢餓状態と飽食状態】						
1) グリコーゲンの役割について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 糖新生について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 飢餓状態のエネルギー代謝 (ケトン体の利用など) について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 食餌性の血糖変動について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。	代謝とエネルギー			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(5) 生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1) 代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【オータコイドなど】						
1) エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義 (生理活性) を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 主な生理活性アミン (セロトニン、ヒスタミンなど) の生合成と役割について説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 主な生理活性ペプチド (アンギオテンシン、ブラジキニンなど) の役割について説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【神経伝達物質】						
1) モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
1) 代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。		生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【細胞内情報伝達】						
1) 細胞内情報伝達に関するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な細胞内 (核内) 受容体の具体例を挙げて説明できる。	薬の作用と生体内運命	生理活性分子とシグナル伝達		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(6) 遺伝子を操作する						
【遺伝子操作の基本】						
1) 組換えDNA技術の概要を説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細胞からDNAを抽出できる。(技能)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。(技能)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 組換えDNA実験指針を理解し守る。(態度)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。(態度)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【遺伝子のクローニング技術】						
1) 遺伝子クローニング法の概要を説明できる。		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 遺伝子ライブラリーについて説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) DNA塩基配列の決定法を説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。(技能)		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【遺伝子機能の解析技術】						
1) 細胞(組織)における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。		バイオテクノロジー		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。		バイオテクノロジー	生物系実習IV	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C10 生体防御						
(1) 身体をまもる						
【生体防御反応】						
1) 自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。		免疫の基礎	免疫と疾患	病原微生物・悪性新生物、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 補体について、その活性化経路と機能を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 免疫反応の特徴(自己と非自己、特異性、記憶)を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) クローン選択説を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【免疫を担当する組織・細胞】						
1) 免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。		免疫の基礎	感染症と病原体、免疫 と疾患	病原微生物・悪性新生物、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫の基礎	感染症と病原体、免疫 と疾患	病原微生物・悪性新生物、 総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
1) 抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) T細胞による抗原の認識について説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構 (遺伝子再構成) を概説できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。		免疫の基礎		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
1) アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【免疫応答のコントロール】						
1) 臓器移植と免疫反応の関わり (拒絶反応、免疫抑制剤など) について説明できる。		免疫の基礎	免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫の基礎	免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な免疫賦活療法について概説できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【予防接種】						
1) 予防接種の原理とワクチンについて説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主なワクチン (生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン) について基本的特徴を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【免疫反応の利用】						
1) モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。			免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。		免疫の基礎	免疫と疾患	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。(技能)		生物系実習 III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。(技能)		生物系実習 I、III		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) 感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
1) 主なDNAウイルス (Δサイトメガロウイルス、ΔEBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、Δアデノウイルス、ΔパルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主なRNAウイルス (Δポリオウイルス、Δコクサッキーウイルス、Δエコーウイルス、Δライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、Δ麻疹ウイルス、Δムンプスウイルス) が引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) レトロウイルス (HIV、HTLV) が引き起こす疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) グラム陽性球菌 (ブドウ球菌、レンサ球菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) グラム陰性球菌 (淋菌、Δ髄膜炎菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
6) グラム陽性桿菌 (破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) グラム陰性桿菌 (大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△プルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) グラム陰性スピリルム属病原菌 (ヘリコバクター・ピロリ菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 抗酸菌 (結核菌、非定型抗酸菌) の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
13) プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【感染症の予防】						
1) 院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。			感染症と病原体	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【健康と環境】						
G11 健康						
(1) 栄養と健康						
【栄養素】						
1) 栄養素 (三大栄養素、ビタミン、ミネラル) を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 食品中のタンパク質の栄養的な価値 (栄養価) を説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		栄養と健康	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【食品の品質と管理】						
1) 食品が腐敗する機構について説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。(知識・技能)		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 食品の変質を防ぐ方法 (保存法) を説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 主な食品添加物の試験法を実施できる。(技能)			生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。(知識・態度)		食品の安全性	生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【食中毒】						
1) 食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。		食品の安全性	生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 社会・集団と健康						
【保健統計】						
1) 集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 人口静態と人口動態について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 国勢調査の目的と意義を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1) 死因別死亡率の変遷について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 日本における人口の推移と将来予測について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【疫学】						
1) 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 疾病の予防						
【健康とは】						
1) 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【疾病の予防とは】						
1) 疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 新生児マスキリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）	社会と保健衛生		生物系実習Ⅴ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【感染症の現状とその予防】						
1) 現代における感染症 (日和見感染、院内感染、国際感染症など) の特徴について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【生活習慣病とその予防】						
1) 生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 生活習慣病のリスク要因を列挙できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【職業病とその予防】						
1) 主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。	社会と保健衛生		生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
G12 環境						
(1) 化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
1) 代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 第一相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 第二相反応に関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学物質による発がん】						
1) 発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 変異原性試験 (Ames試験など) の原理を説明し、実施できる。(知識・技能)		生物系実習 III	化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学物質の毒性】						
1) 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量 (NOEL) などについて概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 化学物質の安全摂取量 (1日許容摂取量など) について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制 (化審法など) を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 環境ホルモン (内分泌攪乱化学物質) が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。(態度)			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学物質による中毒と処置】						
1) 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。(技能)			化学物質の生体への影響、生物系実習 V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【電離放射線の生体への影響】						
1) 人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子(酸素効果など)について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 電離放射線を防御する方法について概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 電離放射線の医療への応用について概説できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【非電離放射線の生体への影響】						
1) 非電離放射線の種類を列挙できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。			化学物質の生体への影響、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1) 地球環境の成り立ちについて概説できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。(態度)			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 環境中に存在する主な放射性核種(天然、人工)を挙げ、人の健康への影響について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【水環境】						
1) 原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 水の浄化法について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。(知識・技能)			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) DO、BOD、CODを測定できる。(技能)			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【大気環境】						
1) 空気の成分を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。(知識・技能)			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【室内環境】						
1) 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 室内環境と健康との関係について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) シックハウス症候群について概説できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【廃棄物】						
1) 廃棄物の種類を列挙できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。(技能・態度)			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) マニフェスト制度について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) PRTR法について概説できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【環境保全と法的規制】						
1) 典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 環境基本法の理念を説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 大気汚染を防止するための法規制について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。			生活環境と健康、生物系実習V	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【薬と疾病】						
G13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1) 薬物の用量と作用の関係を説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。				テラーメイド薬物治療、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。	薬の作用と生体内運命	薬の効き方 I A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【薬の運命】						
1) 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失、薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物の代表的な投与方法(剤形、投与経路)を列挙し、その意義を説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化(崩壊、分散、溶解など)を説明できる。			製剤材料の性質、剤形をつくる	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失、薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【薬の副作用】						
1) 薬物の主作用と副作用(有害作用)、毒性との関連について説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 副作用と有害事象の違いについて説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【動物実験】						
1) 動物実験における倫理について配慮する。(態度)			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。(技能)			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 薬の効き方 I						
【中枢神経系に作用する薬】						
1) 代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な中枢神経疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な精神疾患(統合失調症、うつ病など)の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【自律神経系に作用する薬】						
1) 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。	薬の作用と生体内運命			総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能) △技能であるからCBTには馴染まない			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1) 知覚神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。(技能)			薬理系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【循環器系に作用する薬】						
1) 代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【呼吸器系に作用する薬】						
1) 代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方 II A		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬の効き方 II A、薬の効き方 I B		総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(3) 薬の効き方II						
【ホルモンと薬】						
1) ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。				疾患と薬物治療II B、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。				疾患と薬物治療II B、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) 代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。				疾患と薬物治療II B、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
【消化器系に作用する薬】						
1) 代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方IB		総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方IB		総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) 代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬の効き方IB		総合薬学演習I		総合薬学演習II
4) 代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方IB		総合薬学演習I		総合薬学演習II
5) 代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬の効き方IB		総合薬学演習I		総合薬学演習II
【腎に作用する薬】						
1) 利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。		薬の効き方II A		総合薬学演習I		総合薬学演習II
【血液・造血管系に作用する薬】						
1) 代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬の効き方II A		総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬の効き方II A		総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) 代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。		薬の効き方II A		総合薬学演習I		総合薬学演習II
【代謝系に作用する薬】						
1) 代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				疾患と薬物治療II A、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				疾患と薬物治療II A、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) 代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。				疾患と薬物治療II A、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
4) カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。				疾患と薬物治療II B、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
【炎症・アレルギーと薬】						
1) 代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。		薬の効き方II B		総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			免疫と疾患	疾患と薬物治療II B、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。		薬の効き方II A		総合薬学演習I		総合薬学演習II
【化学構造】						
1) 上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。		薬の効き方II A、薬の効き方II B	免疫と疾患	疾患と薬物治療II B、 総合薬学演習I		総合薬学演習II
(4) 薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
1) 薬物の主な吸収部位を列挙できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習I		総合薬学演習II
2) 消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習I		総合薬学演習II
3) 受動拡散(単純拡散)、促進拡散の特徴を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習I		総合薬学演習II
4) 能動輸送の特徴を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習I		総合薬学演習II
5) 非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習I		総合薬学演習II
6) 薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習I		総合薬学演習II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【分布】						
到達目標：						
1) 薬物が体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物の胎児への移行について、その機構と血液-胎盤関門の意義を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 薬物の体液中での存在状態(血漿タンパク結合など)を組織への移行と関連づけて説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物分布の変動要因(血流量、タンパク結合性、分布容積など)について説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 分布容積が著しく大きい代表的な薬物を挙げる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。(技能)			薬物動態演習、バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【代謝】						
1) 薬物分子の体内での化学的変化とそれが起こる部位を挙げて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を挙げる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 薬物代謝酵素の変動要因(誘導、阻害、加齢、SNPsなど)について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 初回通過効果について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 肝および固有クリアランスについて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【排泄】						
1) 腎における排泄機構について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 腎クリアランスについて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 糸球体ろ過速度について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 胆汁中排泄について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を挙げる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 唾液・乳汁中への排泄について説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 尿中排泄率の高い代表的な薬物を挙げる。			薬物の臓器への到達と消失	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【相互作用】						
1) 薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(5) 薬物動態の解析						
【薬動学】						
1) 薬物動態に関わる代表的なパラメーターを挙げて、概説できる。			薬物の臓器への到達と消失	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。			薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。(知識・技能)			薬物動態演習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 生物学的半減期を説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態演習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) 全身クリアランスについて説明し、計算できる。(知識・技能)			薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。			薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。(技能)			薬物動態演習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 点滴静注の血中濃度計算ができる。(技能)			薬物動態演習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
12) 連続投与における血中濃度計算ができる。(技能)				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【TDM (Therapeutic Drug Monitoring)】						
1) 治療的薬物モニタリング (TDM) の意義を説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。(技能)				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。				薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。(技能)			薬物動態演習	薬物動態の解析、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
G14 薬物治療						
(1) 体の変化を知る						
【症候】						
1) 以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【症候と臨床検査値】						
1) 代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
9) 尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			物理系実習Ⅲ、体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
10) 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
11) 代表的なバイタルサインを列挙できる。			体の変化	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 疾患と薬物治療 (心臓疾患等)						
【薬物治療の位置づけ】						
1) 代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療 (外科手術、食事療法など) の位置づけを説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、病原微生物・悪性新生物、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。(知識・技能)			薬物動態演習	薬物治療演習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【心臓・血管系の疾患】						
1) 心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【血液・造血系の疾患】						
1) 血液・造血系における代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【消化器系疾患】						
1) 消化器系の部位別 (食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓) に代表的な疾患を挙げることができる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病			疾患と薬物治療Ⅰ	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。(技能)				薬物治療演習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) 疾患と薬物治療 (腎臓疾患等)						
【腎臓・尿路の疾患】						
1) 腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生殖器疾患】						
1) 男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【呼吸器・胸部の疾患】						
1) 肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 閉塞性気道疾患(気管支喘息、肺気腫)の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の疾患について概説できる。上気道炎(かぜ症候群)、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【内分泌系疾患】						
1) ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【代謝性疾患】						
1) 糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【神経・筋の疾患】						
1) 神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。	薬の作用と生体内運命			疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬の効き方ⅠA		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		薬の効き方ⅠA		総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆				疾患と薬物治療ⅡA、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。				薬物治療演習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(4) 疾患と薬物治療(精神疾患等)						
【精神疾患】						
1) 代表的な精神疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【耳鼻咽喉の疾患】						
1) 耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【皮膚疾患】						
1) 皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【眼疾患】						
1) 眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【骨・関節の疾患】						
1) 骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【アレルギー・免疫疾患】						
1) 代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療ⅡB、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【移植医療】						
1) 移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【緩和ケアと長期療養】						
1) 癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			薬の効き方ⅡB	疾患と薬物治療Ⅲ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。			薬の効き方ⅡB	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【総合演習】						
1) 指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。 (技能)				薬物治療演習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(5) 病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1) 主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗菌薬】						
1) 抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
4) テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
5) マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
6) アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
7) ビリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
8) サルファ薬 (ST合剤を含む) の有効な感染症を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
9) 代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
10) 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。		ミクロの生物				総合薬学演習Ⅱ
11) 代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
12) 特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗原虫・寄生虫薬】						
1) 代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗真菌薬】						
1) 代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗ウイルス薬】						
1) 代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1) 主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。		ミクロの生物、生物系実習Ⅱ		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。		ミクロの生物		病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1) 悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
3) 化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗悪性腫瘍薬】						
1) 代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
3) 代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
4) 代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
5) 抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
6) 抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
7) 代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
8) 代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1) 主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
2) 主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ
3) 副作用軽減のための対処法を説明できる。				病原微生物・悪性新生物		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
C15 薬物治療に役立つ情報						
(1) 医薬品情報						
【情報】						
1) 医薬品として必須の情報を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【情報源】						
1) 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1) 目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【データベース】						
1) 代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【EBM (Evidence-Based Medicine)】						
1) EBMの基本概念と有用性について説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) EBM実践のプロセスを概説できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【総合演習】						
1) 医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）			医薬品情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
(2) 患者情報						
【情報と情報源】						
1) 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【収集・評価・管理】						
1) 問題志向型システム (POS) を説明できる。				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。(技能)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。(技能)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。(知識・技能)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。(技能)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。(態度)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。(知識・態度)				患者情報、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1) 薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			薬物の臓器への到達と消失	テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【年齢的要因】						
1) 新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【生理的要因】						
1) 生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 栄養状態の異なる患者 (肥満など) に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【合併症】						
1) 腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【投与計画】						
1) 患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。(知識・技能)			薬物動態演習	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。				テーラーメイド薬物治療、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
(1) 製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1) 溶液の濃度と性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 物質の溶解とその速度について説明できる。			製剤材料の性質、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 溶解した物質の膜透過速度について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。			製剤材料の性質、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【分散系】						
1) 界面の性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 乳剤の型と性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 分散粒子の沈降現象について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【製剤材料の物性】						
1) 流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 粉体の性質について説明できる。			製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 製剤材料としての分子集合体について説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 粉末 X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。			製剤材料の性質	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 製剤材料の物性を測定できる。(技能)			製剤材料の性質、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(2) 剤形をつくる						
【代表的な製剤】						
1) 代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
7) 代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
8) 代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【製剤化】						
1) 製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 単位操作を組み合わせ代表製剤を調製できる。(技能)			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			剤形を作る	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【製剤試験法】						
1) 日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。(技能)			剤形を作る、製剤系実習	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(3) DDS (Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
【DDSの必要性】						
1) 従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) DDSの概念と有用性について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【放出制御型製剤】						
1) 放出制御型製剤(徐放性製剤を含む)の利点について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的な放出制御型製剤を列挙できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
5) 経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
6) 腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【ターゲティング】						
1) ターゲティングの概要と意義について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【プロドラッグ】						
1) 代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【その他のDDS】						
1) 代表的な生体膜透過促進法について説明できる。				DDS、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
C17 医薬品の開発と生産						
(1) 医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
1) 医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
1) 医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) ジェネリック医薬品の役割について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 希少疾病に対する医薬品(オーファンドラッグ)開発の重要性について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【非臨床試験】						
1) 非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、治験、総合薬学演習		総合薬学演習 II
【医薬品の承認】						
1) 臨床試験の目的と実施概要を説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 市販後調査の制度とその意義について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) 医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション(ICH)について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習 I		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医薬品の製造と品質管理】						
1) 医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。			グローバル化	医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【規範】						
1) GLP (Good Laboratory Practice)、GMP (Good Manufacturing Practice)、GCP (Good Clinical Practice)、GPMS (Good Post-Marketing Surveillance Practice) の概略と意義について説明できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【特許】						
1) 医薬品の創製における知的財産権について概説できる。				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬害】						
1) 代表的な薬害の例 (サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど) について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)				医薬品開発と生産のながれ、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
1) 古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【標的生体分子との相互作用】						
1) 医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬品と標的分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【スクリーニング】						
1) スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【リード化合物の最適化】						
1) 定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 生物学的等価性 (バイオアイソスター) の意義について概説できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。				リード化合物の創製と最適化、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1) 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 組換え体医薬品の安全性について概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【遺伝子治療】						
1) 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【細胞を利用した治療】						
1) 再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1) ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) バイオインフォマティクスについて概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
3) 遺伝子多型 (欠損、増幅) の解析に用いられる方法 (ゲノミックサザンプロット法など) について概説できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
4) ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例 (イマチニブなど) を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。			バイオ医薬品とゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
【疾患関連遺伝子】						
1) 代表的な疾患 (癌、糖尿病など) 関連遺伝子について説明できる。			バイオ医薬品のゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
2) 疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。			バイオ医薬品のゲノム情報	総合薬学演習 I		総合薬学演習 II
(4) 治験						
【治験の意義と業務】						
1) 治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。				治験		総合薬学演習 II
2) 医薬品創製における治験の役割を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
3) 治験 (第 I、II、および III 相) の内容を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
4) 公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
5) 治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。(態度)				治験		総合薬学演習 II
6) 治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。				治験		総合薬学演習 II
【治験における薬剤師の役割】						
1) 治験における薬剤師の役割 (治験薬管理者など) を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
2) 治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。				治験		総合薬学演習 II
3) 治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。				治験		総合薬学演習 II
4) インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。(態度)				治験		総合薬学演習 II
(5) バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
1) 帰無仮説の概念を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
2) パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
3) 主な二群間の平均値の差の検定法 (t-検定、Mann-Whitney U検定) について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
4) χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。(知識・技能)				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
5) 最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。(知識・技能)				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
6) 主な多重比較検定法 (分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など) の概要を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II
7) 主な多変量解析の概要を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習 II

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【臨床への応用】						
1) 臨床試験の代表的な研究デザイン (症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験) の特色を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
2) バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
3) バイアスを回避するための計画上の技法 (盲検化、ランダム化) について説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
4) リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 (知識・技能)				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
5) 基本的な生存時間解析法 (Kaplan-Meier曲線など) の特徴を説明できる。				バイオスタティスティクス		総合薬学演習Ⅱ
C18 薬学と社会						
(1) 薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
1) 薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。(態度)				事前実習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。(態度)				事前実習、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【法律と制度】						
1) 薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
7) 製造物責任法を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【管理薬】						
1) 麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 大麻取締法およびあへん法を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 毒物及び劇物取締法を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【放射性医薬品】						
1) 放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準 (放射性医薬品基準など) および制度について概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。			薬剤師を取り巻く法律と制度	総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(2) 社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1) 日本における社会保障制度のしくみを説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 介護保険制度のしくみを説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
【医療保険】						
1) 医療保険の成り立ちと現状を説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医療保険のしくみを説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医療保険の種類を列挙できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬剤経済】						
1) 国民医療費の動向を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 保険医療と薬価制度の関係を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 診療報酬と薬価基準について説明できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 医療費の内訳を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
5) 薬物治療の経済評価手法を概説できる。				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
6) 代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。(知識・技能)				社会保障制度と薬剤経済、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
(3) コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1) 地域薬局の役割を列挙できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 学校薬剤師の役割を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【医薬分業】						
1) 医薬分業のしくみと意義を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。(知識・態度)				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) かかりつけ薬局の意義を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【薬局の業務運営】						
1) 保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 医薬品の流通のしくみを概説できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
4) 調剤報酬および調剤報酬明細書(レセプト)について説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1) 地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。(態度)				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
2) 主な一般用医薬品(OTC薬)を列挙し、使用目的を説明できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ
3) 漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。				コミュニティファーマシー、総合薬学演習Ⅰ		総合薬学演習Ⅱ